

施設密着レポート

心の通った南国市の『老人保健施設』

個人の事情に沿った要介護サービスに感動!!

高齢化が著しく進む今日、介護を必要とする老人への対応など、老人福祉の充実が急務となっています。

このような状況の中、南国市では民間の老人保健施設が開設され、大きな成果を上げています。

これら市内の二つの施設には、要介護老人のために一生懸命働く若者や、リトダーとして輝きながら働く女性の姿がありました。広報委員会がレポートします。

『夢の里』訪問記

平成六年に開設されたこの施設は、北に緑豊かな岡豊山を背し、国分川の緩やかな流れに心がなごむ、環境の素晴らしいところにあります。



老人保健施設とは、疾病や負傷などにより、寝たきりの状態にある老人または、これに準ずる状態にある老人に対して、医学的管理下における介護および、リハビリテーションやその他の必要な医療を行うとともに、その日常生活上の世話をを行うことを目的とした施設のことをいう。

それは、医療機関（病院）と福祉施設（特別養護老人ホーム）の中間に位置し、老人が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう支援するとともに家庭へ復帰することを旨とする施設である。

去る七月三十一日、老人保健施設「夢の里」と「ケアポート南国」の両施設を広報委員会が取材しました。



会議室で受けた説明によると「デイ・ケア」は自宅で療養されている看護・介護の必要なお年寄りに通っていただき、血圧測定などの健康チェック、リハビリテーションや、歌・ゲーム・工作などのレクリエーション、入浴、食事とおやつなどのサービスを提供し、送迎もしているとの

『ケアポート南国』訪問記

「ケアポート南国」は、入所八十床など「夢の里」と同規模・内容の設備を備えています。通所によりデイ・ケアを受けているお年寄りは約五十人で、一階のホールでレクリエーションが行われ、お年寄りの楽しい声が始終聞こえていました。



建物の中は、非常に明るく、折り紙で作られた色とりどりの飾り物が置かれ、とても暗く暗くがちな施設での生活を、少しでも明るくしようとの心遣いが感じられました。四十八人の職員の皆さんが、お年寄りに常に声をかけ、まるで自分の家族に接するような親しみを持って介護をされていて、その様子はとても

ほほえましいものでした。

施設を案内してくれた総務課長さんは、「民間の施設が数多くできて、お互いに刺激しながら、お年寄りが必要とするニーズに細かいところまで応えていける、そんな施設にしていきたい」と抱負を述べられるとともに「二十四時間対応可能ですので、困った時は、いつでもご連絡ください」と、心強い言葉をいただきました。

老人施設という、何か事務的で無味乾燥なものをイメージしたのですが、ケアポート南国では、入所者も通所者も本当に明るく、いきいきとした活力を感じました。

問い合わせは、「ケアポート南国」(☎054400)まで。



「施設に働く人たちの熱い思いに感服」

二〇二〇年、国民の四人に一人が65歳以上の老人となります。

誰もが生きていく限り「老人」と呼ばれる時を迎えます。その時を何の不安もなく迎えられるでしょうか。保険というシステムも万全なものではない現状で、いざという時、何を頼ればよいのか?……その答えをひとつ見たいような気がしました。

そして、レポートした民間の両老人保健施設では、関係する人それぞれがいきいきとして輝いていました。使命感に燃えた瞳にホッと救われました。民間の施設だからこそできるサービスがある。そんな確信もあります。高齢化社会の問題は、他人ごとではなく、まさに自分自身の問題として真正面から、今すぐに取組んでいくべきだ。そんな気にさせられた今回の取材でした。

ことで、西は高知市万々から東は香北町まで五台の車で対応しています。一日体験入所も昼食代五百円のみで可能とのこと。

通所(デイ・ケア)五十人、入所八十床(うち褥床四十)の規模。職員は、看護婦・介護士・栄養士・事務員、相談指導員・医師・理学療法士・運転手などで四十八人。

一人当たり、入所利用料は月額千八百円、通所利用料は月額八百五十円、直接「夢の里」(☎056666)へ連絡すればOKとのことでした。

「介護士の研修生が多数訪れるため、職員も懸命に勉強してがんばっている」という言葉の中に明るく南国市の福祉の明日を見た気がしました。



やさしい市政の推進 高齢化社会対応策を充実